

茨城県

# 育成会だより

第 136 号

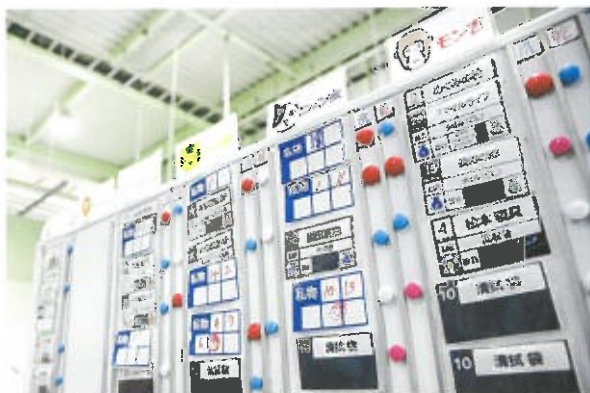
発行日 平成 30 年 12 月 10 日  
 発行 一般社団法人  
 茨城県手をつなぐ育成会  
 編集 広報委員会  
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町 1918  
 茨城県総合福祉会館内  
 ☎ 029-243-3838  
 FAX 029-243-3854  
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>  
 e-mail [iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp](mailto:iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp)



毎週の朝礼風景



熱心に意見を交換する障害者指導会議



仕事を助けるタスカルカード



おみやげいっぱいの上野動物園遠足

当社の強みとして社員が挙げているのは、チャレンジャー(当社では障害者をチャレンジャーと呼んでいます)が働いていることも私にとって嬉しいことです。毎週行われる朝礼では、全てのセクションの従業員が集まり6名一グループとして、そのときのテーマを皆で話しシェアすることにより、いい人間関係が出来ています。

チャレンジャーも、いちいち指示を受けなくても、自ら仕事出来るタスカルカードというツールを使ったり、ひとつの仕事をするだけでなく多くの仕事をする事により、スキルとモチベーションを上げる取り組みもしています。彼ら彼女らが活き活きと輝いていることが、当社ヴィオラが目指すところで、全員で日々取り組んでいます。

その後、A型就労支援事業所も立ち上げ、全体で50名近くの障害者が働く事業所となりました。私たちの理念は①飛躍と成長を信じ、社員の幸せを確立する。②社員の教育と育成を目指し、社会に貢献できる会社にする。また、企業行動指針として、①笑顔、あいさつ、ありがとう！②お客様に感動を与えます！③3S活動を通じて、人間性を磨きます！を常に心掛けています。

しかし、このY君は入社半年間はコミュニケーションがうまく取れず、今回も失敗になってしまいかなあと思ったときに、工場長から「大丈夫です、Y君はしっかりやれるようになりました。」との報告があり、それで障害者の採用を積極的に行いました。平成20年には重度障害者多数雇用事業所として認可され、助成金で働き易い工場にもなりました。

当社が創業56年のおしほりレンタル会社です。当社が障害者雇用を始めたのは平成2年からですが、当初はどうやって障害者と対応していいか分からず、採用者がすぐに辞めていってしまいました。半ば障害者雇用を諦めていたとき、当時の友部養護学校の進路指導の先生の熱意でY君を採用し、そこから実際の障害者雇用が始まりました。これが平成6年でした。

**当社の強みはチャレンジャー！**  
**株式会社ヴィオラ 代表取締役 藤本昌宏**

# 第56回 手をつなぐ育成会茨城大会を開催

— 「つなげよう あなたの手 わたしの手」

## “親なきあとが喫緊の課題” 矢野会長が茨城大会で語る

恒例の「手をつなぐ育成会」の第56回茨城大会が、本年は会場を県総合福祉会館コミュニティホールに移し、参加者約230名を集めて10月24日(水)10時から行われました。大会主題とスローガンは、以下のとおりです。



あいさつする矢野会長

### ・主題：

あたりまえに暮らせる社会の実現  
自立支援と就労支援の推進  
本人の権利擁護と意思の尊重

### ・スローガン：「つなげよう あなたの手 わたしの手」

開会のことばに続いて、全員起立による「手をつなぐ母の歌」の斉唱ののち、大会式典に入りました。まず、**矢野会長**が主催者を代表してあいさつし（\*後述）、次に、県知事表彰・育成会会長表彰が行われました。知事表彰を飯村晴代副会長（つくばみらい市）が受賞し、会長表彰を



講演会で語る水口教授（4P 参照）

根目沢浩幸（かすみがうら市）・富田和子（水戸市）・島田富子（かすみがうら市）・川面圭司（下妻市）の4名の方、および本人功労者として瀬谷明子（日立市）・田村幸子（取手市）の2名の方が、それぞれ受けられました。おめでとうございます。

**来賓祝辞**は、大井川県知事（代

読小野寺副知事）と水戸市長（代読大曾根福祉事務所長）からいただきました。知事は、「育成会のこれまでの活動に対し、敬意と感謝の気持ちを表したい。本日の表彰者には今後のますますの活躍を期待します。来年は、いばらき国体の年で、障害者スポーツ大会も開かれる。元号も変更され、新時代に入る。障害者の新たな第一歩にしていきたい。」と述べられました。水戸市長は、「市の障害者計画に基づき、すべての人が安心して笑顔で暮らせる水戸市を目指していく。官民一体となり、障害者に対してあたたかい支援を提供してまいります。」と語られました。

このあと、**受賞者を代表**して、田村幸子さんが謝辞を述べました。田村さんは、自身でまとめたという謝辞を、強い緊張感の中で、しっかりと読み上げ、高等部卒業後27年にわたる勤務について、周囲の方々への感謝の気持ちと今後のがんばりの決意を述べ、会場から大きな拍手を浴びました。

最後に、飯村副会長が、大会宣言（案）をかみしめるように丁寧に読み上げ、全員の賛同の拍手で**大会宣言が採択**されました。



「手をつなぐ母の歌」を全員で斉唱



力強く謝辞を述べる田村幸子さん

**\* 矢野会長あいさつの要旨：**

1. 茨城県手をつなぐ育成会は、一般社団法人となって3年目を迎えた。
2. 近年、障害者のための法律や制度の導入・改善が進められてきた。
3. 国レベルでは、地域共生社会の実現に向けて、平成29年2月に「我が事、丸ごと」の地域づくりが提起され、今年4月から「共生型サービス」が創設された。
4. 県内各地で親も障害者も高齢化が進み、親なきあとの問題が、喫緊の課題となってきた。
5. 特別支援学校との関係強化について、特に卒業後の自立支援・就労などの支援に努めて参りたい。

**平成30年7月豪雨災害・北海道胆振東部地震義援金の御礼**

あたたかいご協力・ご支援をありがとうございました。

○ 428,703 円（豪雨義援金）

○ 228,420 円（地震義援金） ※地震は11月20日現在

（全国手をつなぐ育成会連合会を通して、甚大な被害を受けた育成会会員に見舞金が支給されます。）

# コミュニケーションとは聞く力、観察する力?! 茨城大会で水口教授が説く

土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征

大会の後半（10時50分～）で、常磐大学大学院人間科学研究科の水口進教授が、「神経発達障害者のコミュニケーション～バリアフリーからユニバーサルデザインへ～」との演題で講演を行ないました。

まず、ごく簡単な語句の説明から－

- ・神経発達障害：知的障害と自閉症とを含めて、神経発達障害と称する。
- ・バリアフリー：「障壁・段差（バリアー）なし、無障壁のこと。障害者や高齢者の生活や活動に不便な障壁を取り除くこと」（カタカナ外来語略語辞典から）。ほとんど日本語化されている。
- ・ユニバーサル：「宇宙の、一般の、普通の」の意。
- ・ユニバーサルデザイン：「高齢者や障害のある人も、もちろん健常者も、普通に使いやすく設計された意匠のこと。万人向け設計、誰にでも使いやすい設計」という意味。

水口教授の経歴に触れておきます。

- ・昭和31年 青森県弘前市に生まれる
  - ・昭和56年 愛知学院大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了
  - ・昭和58年 秋田県小児療育センター勤務（平成18年3月まで）
  - ・平成18年4月 常磐大学助教授、教授を経て、現在同大学心理臨床センター次長
- \*水戸市子ども子育て委員会委員長等を兼ねる

水口先生は、さすがコミュニケーションの専門家(?)だけのことはあって、これまでの長年の経験を踏まえて、数多くの事例やエピソードを引用して、活気のある、わかりやすい講演となりました。今回は、コミュニケーションを中心にいろいろな重要点に触れていただきました。

しかし、いつもこの種の講演会・講習会に出るたびに感じるのですが、正直言って、講演内容を数枚の原稿にまとめるのは至難のワザで、できるだけ多くの方に、直接、講演会等に参加していただきたいという気持ちで、この原稿を書いています。

## 〈講演の主要点〉

- **教授として学生の指導にあたる際に：**コミュニケーションの取りかたについては、コトバのやり取りだけではない。障害者とのコミュニケーションは聞く力であって、一方的にこちらが話すことではない。相手の行動を観察する力でもある。
- **地域の施設について：**大きな施設は不要。小さな施設、持続可能な、次の世代につながる施設を、広く各地に作る事が肝要である。「半官半民」がよい。
- **心の理論：**ヒトは生まれながら心の理論(相手の心を理解する力)を持っている。4歳くらいから発達し、9歳くらいで一応この力を身につけるが、自閉症児の場合、これが育ちにくい。一つのコトバに二つ以上の意味があることが理解できない。(一例)「ちょっと手を貸して」と言われて、相手の目の前に「手」を差し出してくる。この場合、障害者に理解できるように、「この机を動かすから、手伝って」というように依頼する必要がある。
- **つまり、相手に合わせたコミュニケーション法を自ら考慮することが必要である。**逆に、障害のある人も、話す相手によってどう対応していったらよいか、悩んでいる、苦しんでいるのである。
- **障害者が知覚・感覚（聴覚・触覚・味覚・嗅覚など）の異常を持つ場合：**一例として、聴覚に“異常”がある場合、あるヘッドホンを使えば、相手の声のみを明瞭に拾い、その他の音・雑音を排除することができるので、これの活用で、一般企業に勤められた学生の実例がある。
- **得意なことを伸ばそうとしたほうが、ムリに不得手なことを伸ばそうとするよりも、一般的により結果がでる。**PCができる子なら、それで文章を書く、黒板の板書ができない子なら、ケータイの写真を使う、などである…

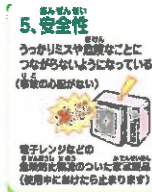


図  
ユニバーサル  
デザインの  
7つの原則

# 「これからもここで暮らしたい」

## 関プロ川崎大会に参加して

NPO法人 茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会 青木 礼子

9月14日（金）、川崎日航ホテルにおいて第52回手をつなぐ育成会関プロ川崎大会が開催されました。第1分科会は、「働く～新しい働き方の選択肢を探る」でした。

私の出席した第2分科会は、「『高齢』～親の支援なきあとの障害ある人の生活を考える」。基調講演は、福岡寿氏による「高齢になっても ここで暮らすために」で、長野県自立支援協議会の事例を挙げ、支援体制の充実によって障害のある人の意思を尊重した「暮らし」を実現させるポイントは何か、を探る分科会となりました。

午後は、会場をミューザ川崎シンフォニーホールに移し、全体会が開催されました。全国手をつなぐ育成会連合会会長久保厚子氏による**中央情勢報告**があり、重度障害者への支援の充実、自立生活援助の報酬設定、重度訪問介護の拡大、居宅訪問サービスの創設、医療的ケアを要する障害児に対する支援の充実等々について力説されました。

その後、高橋薫子さん（ソプラノ）、河原忠之さん（ピアノ）による記念コンサートが開催されました。最後に地元のコーラスグループと全員で“ふるさと”を歌いました。素晴らしい会場、素敵な音楽で、優雅な時間を過ごすことができました。

本人会は、川崎市にある「藤子・F・不二雄ミュージアム」で、大好きなキャラクターの世界に浸ることができました。

**来年は、2019年11月9日さいたま市において開催されます。本人会は、鉄道博物館です。**



超満員の第2分科会



“ふるさと”を熱唱

# IDEA モデルとは？

## 《第1分科会》に参加して

桜川市手をつなぐ育成会 大島 みのる

私は第1分科会の「『働く』～新しい働き方の選択肢を探る」に参加しました。最初に須藤シンジ氏が「障害者の働き方はひとつじゃない」という題名で講演され、続いてシンポジウムでは、東京大学の近藤武夫氏が《新しい働き方をデザインする》（超短時間雇用 IDEA モデル）について話されたあと、須藤氏と対談されました。

須藤氏は“心のバリアフリー”をクリエイティブに実現する思想や方法として、「ピープルデザイン」という新たな概念を提唱し、障害の有無を問わずハイセンスに着こなせるアイテムや、各種イベントもプロデュースし、Jリーグ川崎フロンターレの試合などで楽しく働く事例などを紹介しました。

近藤氏は、伝統的な日本型雇用の形態にとらわれることなく、IDEA モデル（職務を明確に定義して、超短時間から働くことができ、本質的業務以外は柔軟に配慮しながら、同じ職場でともに働く）で障害者が働くことにより、私達が分断と衝突を超えて、誰かとともにある未来をつくることができると話されました。

## 自己決定の重要性を学ぶ 第一回講習会に出席

相談支援専門員 増田 里子

8月24日、県総合福祉会館において、第一回講習会「障害者が安心・安全に暮らすためには家族はどうすれば良いか？」のテーマで、福岡寿氏より様々な提言を頂き、その後、グループワークセッションに参加しました。

講演では、長野県の北信圏域で本人中心の相談支援を実践してきた先生から、地域生活移行の取り組みをお聞きし、緩やかな自己決定の重要性を学ぶことができました。

グループワークをした際、相談支援専門員について、どのような役割を担っているのか、サービス等利用計画書は何のために必要なのか、まだまだ周知されていない現状があることを思い知らされました。これは、私達相談員の努力不足に他なりません。また、輪型の支援体制の構築や地域の資源作りのために必要な自立支援協議会についても、地域格差があり、当事者さんの声を拾い切れていないという課題の指摘がありました。

福祉のサービスを利用していれば、必ず担当の相談支援専門員がいるはずですが。障害の種類や程度には多様性があり、ニーズはライフステージによって変化していきます。そのような時に、お一人で抱え込んだり悩んだりせず、相談支援専門員をうまく頼って、人生の支援プランと一緒に考えてもらうことや、関係機関が連携して支援ができるように組み立ててもらうことが、本人さんの幸せに繋がっていきます。

今回の講習会に参加して、利用者さん一人ひとりのお気持ちに寄り添いながら、日々の業務に真摯に向き合っていきたいと、福岡先生から諦めない勇気を頂きました。感謝しています。



8月24日 講習会での福岡 寿氏

## 「障害者の親亡き後の人生を考える」

綿 祐二氏を講師に研修会開かれる

水戸手をつなぐ育成会 根本 順子

日本福祉大学教授の綿先生のごことは、以前関プロ大会分科会で短いお話を聞いて存じておりましたが、ご両親も兄弟も障害者であったという環境に強烈な印象が残っていました。今回、9月26日の研修委員会主催の研修会で、その環境の故に法人を立ち上げ施設運営に至った経緯をお聞きして、腑に落ちるものがありました。私自身も4歳の時に父が障害者になり、そして我が子の障害を受け入れた時から、自分は行動を起こすしかないと思い込んでしまいました。なぜでしょうか？

綿先生からは、**法律改正の話と今後の影響について、次のような提言がありました。**本人がどこどのように生きていくか、年齢と共に変化するライフステージを見据え、次のステージに行くために、何を準備しておかなくてはならないか考えなさい。親は死ぬまでに任意後見契約や事務委任契約、遺言書、本人の緊急時の医療処置の限度等々をやっておいて欲しいとの事でした。そして、親と本人の共依存の現状に脱皮期限を設けるよう言われ、頭を垂れて帰路につきました。

先生のお話は、障害を持たないわが家の長男から突き付けられた現実のような気がして、日々重く受け止めています。ありがとうございました。



9月26日 研修会での綿 祐二氏

# グループホームが“地域共生社会”へのカギ

## 県手をつなぐ育成会第二回講習会に48名

土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征

県手をつなぐ育成会の第二回講習会（権利擁護委員会主催）が、11月15日（木）、総合福祉会館で、10時から昼食をはさみ午後2時30分まで行われました。いつもの、全員参加によるワークショップ形式です。今回の講師は、栃木県小山市を拠点とする「社会福祉法人バステル」常務理事の石橋須見江氏でした。今年度の講習会の共通テーマは、「障害者が安心・安全に生涯を暮らせるには、家族はどうすれば良いか？」で、第1回は、8月24日の、福岡寿氏（長野県自立支援協議会会長）によるワークショップでした。

さて、石橋さんと言えば、やや古くなりますが、平成22年2月の研修会で、「街で暮らす～事例から学ぶ自立の姿～」のテーマで講演して、「グループホーム（GH）は本人を成長させる訓練の場だ」とか、「就労が目標ではない、継続が目的だ」などの発言で、参加者に大きなインパクトを与えてくれました。今回はどのような内容になるのか、期待をいじめて会場に参りました。

出席者は48名、これが6グループに分かれ、講師の話に耳を傾けました。本日の講演のポイントは、「我が事・丸ごと——障害者の環境が大きな変革の時期を迎えている、地域に生きていく覚悟が特に保護者に必要だ、GHは障害者が“地域共生社会”に共存していくカギとなる道だ、etc.」という点にあったと思われまふ。また、「子の自立心は成長するもので、GHに入ると、親のいる自宅に戻りたがらなくなる！」という指摘もあり、全員（？）が思わず苦笑させられるという一幕もありました。

午後のワークショップでは、石橋講師が講演内容をベースとして検討し合う各グループを順次まわって、さまざまな質問に答えたあと、マトメとして全体の感想を述べました。

私自身は、かねて、自分の子どもは将来“入所施設”に入りたいという願望が強くあるため、GHへの理解が浅く、かなり不安感や不信感を持っていました。今回の研修で、直接、講師にこの点を尋ねる機会を持つことにより、GHに対する認識を相当改めることができ、幸いでした。育成会の一員として、今後いろいろな面で研修・研鑽に努めていきたいものだと、考えた次第です。

# 「心のとも運動」とは何か ご存知ですか？

## 参加学校にプラス 育成会活動にプラス

理事・NPO法人あすなろ会 山本 敬由

「心のとも運動」とは、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校の児童生徒に、鉛筆・シャープ替え芯・消しゴム・マーカーペン・マイネームペン等の筆記用具を買っていただき、その売上の一部を取扱い学校と県教育機関に還元したうえで、県育成会の諸活動の資金にしている運動です。

- ①「心のとも運動」の成果（売上）の一部は、それぞれの学校に助成金として戻される。
- ②学校への助成金を除いた県育成会への収益金の内から、約3分の1相当額が、県の先生方の研修や手をつなぐ作品展への助成として還元されている。
- ③しかし、残念ながら、ここ数年、協力校が減っていることもあり、学校全体での収入額（売上額）が減少傾向にある。それに伴い、県育成会の活動資金も減少しており、将来的な財政難に陥る恐れなきにしもあらず、学校側への積極的な働きかけが肝要である。

このような状況にあるので、県育成会として、「心のとも運動」に対してより力を入れ、諸学校に対して、この運動へのご理解・ご協力を求めていく必要があります。そのため、単位育成会ごとに、地元市町村および近隣周辺の諸学校を訪問する活動を展開中です。育成会会員の皆さんも、機会があれば、ぜひ、各育成会の会長を中心とする役員や、理事の方々への応援・支援をお願いいたします。

## 2月からの行事予定

月	日(曜日)	行事予定
2月	8日(金)	知的障害者相談員研修会(大研修室)
3月	10日(日)	「育成会だより」137号 発行
	20日(水)	平成30年度第5回理事会(小研修室A)

## 2019年「いきいき茨城ゆめ大会」を開催

2019年10月12日～14日に、第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が開催されます。

全国障害者スポーツ大会は、本県では初めての開催であり、障害に対する理解を深め、社会参加に寄与するとともに、障害の有無にかかわらず、すべての人がともに歩み幸せに暮らせる社会を目指す大会としています。

大会では、開会式・閉会式の会場となる笠松運動公園をはじめ、会場地となる7市15会場において、陸上や卓球などの個人6競技、ソフトボールやサッカーなどの団体7競技のほか、6市においてブラインドテニスなどの6つのオープン競技が実施されます。

県内外から選手や関係者の皆様が大勢来県されることから、ボランティアや花いっぱい運動などの県民運動により大会の機運を盛り上げ、おもてなしと思いやりの心でお迎えしたいと考えております。また、県民一人ひとりの皆様が大会の開催を通して、障害者スポーツに親しみ、感動し、共感できるようにしてまいります。

開催まで残すところ9か月余りとなりました。大会に参加される全員が「参加してよかった」と思える大会にしてまいりますので、育成会の皆様の多大なるご支援とご協力をお願いいたします。

ぜひ、一緒に大会を盛り上げていきましょう！



いきいき茨城ゆめ大会2019

第19回全国障害者スポーツ大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

2019年10月12日(土) ▶ 10月14日(月)

## 平成30年度福祉表彰者

### 第68回茨城県社会福祉大会

10月17日(水) 常陸太田市民交流センターパルティホール

茨城県知事表彰

社会福祉自立更生者 大内 祐二(日立市手をつなぐ親の会)  
小林 忠勝(日立市手をつなぐ親の会)  
菊池 茂樹(日立市手をつなぐ親の会)

茨城県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉団体役員 名澤 久子(日立市手をつなぐ親の会)  
竹内 真美子(日立市手をつなぐ親の会)  
鈴木 久美子(日立市手をつなぐ親の会)  
淡路 陽子(ひたちなか市障害児者育成会)

## 編集後記

何とまあ、今年は異常な災害が続いたことでしょうか。関西地方を襲った集中豪雨。東海地方に上陸した台風が逆走して九州へ行く。夏は日本国観測史上初の気温(熊谷市41.1度)を記録。北海道においては、地震で火力発電所がストップし全道が停電しました。

10月31日(水)に原発災害地(双葉町・大熊町)を車窓より見たのですが、約8年前の着の身着のまま避難した状況が浮かびました。いつになったら復旧が出来るのかと、頭をよぎりました。

災害地の方々は大変ご苦労さまです。来年はきっと良いことが起こることを願っております。

(徳永一成)

●「特別支援学校紹介」は、次号(第137号)に掲載します。